

⑩日本特許庁 (JP) ⑪実用新案出願公告

## ⑫実用新案公報 (Y2) 昭54-21859

⑬Int. Cl.<sup>2</sup>  
E 04 F 13 / 14識別記号 ⑭日本分類  
86 (6) B 323⑮内整理番号 ⑯公告 昭和54年(1979)8月2日  
6828-2E

(全2頁)

1

2

## ⑭石膏ボードの連接構造

⑪実願 昭48-34801  
 ⑫出願 昭48(1973)3月22日  
 公開 昭49-136015  
 ⑬昭49(1974)11月22日  
 ⑭考案者 望月明  
 滋賀市上清水町11の21  
 ⑮出願人 野田合板株式会社  
 東京都中央区日本橋本町3の1  
 ⑯代理人 弁理士 羽生栄吉  
 ⑰引用文献  
 実開 昭49-12729

## ⑭実用新案登録請求の範囲

木口面の切欠き4と該切欠き4に平行する凹状溝5とを有する石膏の芯層1が、ボード用厚紙2、3で芯層1の形に沿つて被覆された石膏ボード単位体を連接した構造であり、

隣接する石膏ボード単位体の木口面の切欠き4が互いにつながつて形成される一つの凹状溝a前記凹状溝5が平坦面となるように被覆されている、ことを特徴とする石膏ボードの連接構造。

## 考案の詳細な説明

本考案は天井板、壁板などに用いる石膏ボードの連接構造に関するもので、その目的とすることは、施工状態がよくて継目が目立たない、立体的な表面を有する石膏ボードを構成する点に存する。

従来この種石膏ボードは第1図のように表裏に30  
 ボード用紙2'、3'を、芯に石膏1'をサンド  
 イツチした平面板である。しかし石膏1'は脆い  
 ため、固定釘などを打つために前記ボード表面に  
 V溝4'が切削形成すると、ボード用紙2'が除去  
 されてしまうので折れ易くなる。

また切削した端部よりボード用紙2'が剥離し  
 て芯の石膏1'が崩れ、ボードが破損する欠点が

あつた。

またこのような石膏ボードを平板のまま用いる  
 とその継目にバテ5'を塗る必要があるため、厚  
 さむらが生じ継目が目立ち、見苦しかつた。また  
 5 第3図のように、木口をテーパー状にしたものも  
 用いられているが、施工後バテ6'などで継目を  
 隠すことが必要である。しかしこのようなもので  
 は工程が複雑で施工時間が長くなる欠点がある。  
 (またテーパー状部ではバテなどの厚さむらが目  
 10 立ち易い。)

本考案は以上のような従来技術の改良を企図し  
 たもので、その構成の要旨とするとところは、木口  
 面の切欠き4と、該切欠き4に平行する凹状溝5  
 15 とを有する石膏の芯層1がボード用厚紙2、3で  
 芯層1の形に沿つて被覆された石膏ボード単位体  
 を連接した構造であり、隣接する石膏ボード単位  
 体の木口面の切欠き4が互いにつながつて形成さ  
 れる一つの凹状溝a前記凹状溝5が平坦面となる  
 ように被覆されている、石膏ボードの連接構造に  
 20 存するものである。

以下その詳細について説明する。  
 ⑭芯層1の石膏、およびボード用紙2、3は従来  
 のものをそのまま用いればよい。

石膏層1とボード用紙2、3との接着は従来の  
 25 ように石膏スラリーが硬化する際に接着するもの  
 で接着剤を用いず、従来と変りない。

芯層1の形状は両木口部に切欠き4を有する。  
 そして切欠き4は左右対称で接合時両者の切欠  
 4で1つの凹状溝aが形成される。

溝aの断面形状は第5図イ、ロのように随時選  
 択することができるが目地板7が嵌合できる形状  
 30 であることが望ましい。

さらに切欠き4、4の間にこれらと平行して凹  
 状溝5を凹設する。凹状溝5は石膏ボードの意匠  
 35 性の向上と、凹状溝5から釘打してボードの下地  
 材への密着性を強化するためである。切欠き4、  
 4の深さ、巾は意匠的效果を考慮して、物理的強

3

4

度を低下することにより使用上問題が生じない範囲で決定される。

④ボード用原紙2, 3を芯層1の形状に沿つて全表面に接着する方法は従来の方法でよい。たとえば表面ボード用原紙2を折曲した中に石膏スラリーを注入した後、裏面ボード用原紙3を表面原紙2の上に貼着して、圧延ロールで成形すればよい。

⑤施工のとき凹状溝a, 5があつても、釘打ちのとき折れや原紙の剥離を起さない。

⑥凹状溝a, 5があつても、両面にボード原紙2, 3が切目なく全表面に接着されているため、釘打ちのとき折れや原紙の剥離を起さない。

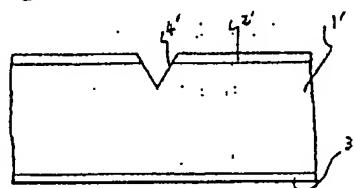
⑦釘着の際凹状溝a, 5から釘を打ち込むので、打込み距離lがボードの厚さより小さいので打込抵抗が少なく、脆い石膏の打込みのときの破壊が少なくてすむ。

#### 図面の簡単な説明

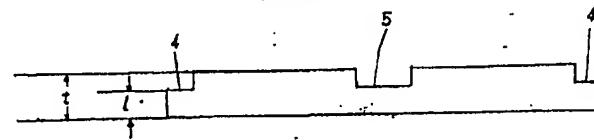
第1図、第2図、第3図は従来のボードの正面図、第4図は本考案のボードの正断面図、第5図イ、ロは凹状溝の形状例示図、第6図は目地板を接合部に嵌合した場合の正面図である。

1: 石膏の芯層、2, 3: ボード原紙、4: 切欠き、5: 凹状溝、a: 凹状溝。

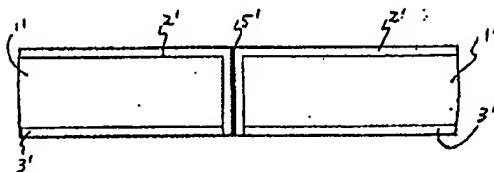
第1図



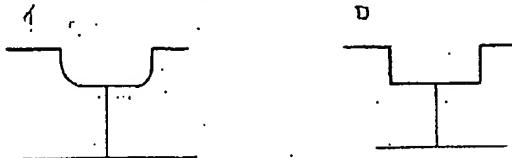
第4図



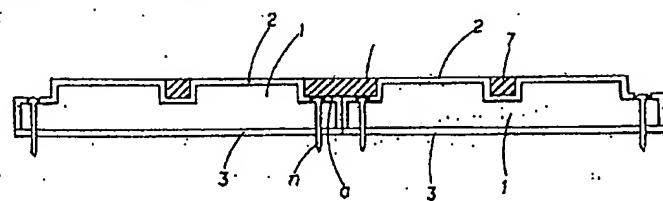
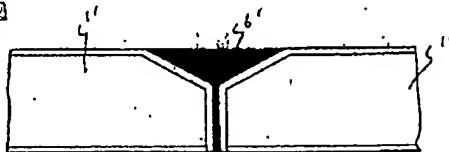
第2図



第5図



第3図



第6図

Citation 8

Publication number: 54-21859

Date of Publication: 08.02.1979

Application number: 48-34801

Date of Filing: 03.22.1973

Applicant: Noda Gohan K.K.

Title of the Device: Connecting structure for a plasterboard

Abstract:

1) Purpose: To provide a plasterboard which has a good construction state, have joints hard to spot, and has a steric surface.

2) Constitution:

Core layers 1 of a plasterboard having cutout 4 and concave groove 5 which is parallel to cutout 4, are connected each other by being covered with pasteboards 2 and 3 such that concave groove a which is formed by connecting cutouts 4 one another is flush with concave groove 5.